

7. 堰と周辺地域との関わり

7.1 堰周辺の概況

7.1.1 堰周辺地域の概要

(1) 概要

九頭竜川流域は、本州日本海側のほぼ中央にあり、福井県嶺北地方に位置している。流域には、福井市をはじめ福井県の7市4町と岐阜県郡上市の一部が含まれている。流域面積は、福井県面積の約70%に相当する2,930km²である。また、山地と平地の割合は、福井平野などの平地が約22.2%であり、残りの約77.8%が山地である。

流域の主流である九頭竜川は、幹川流路延長116kmを有し、北陸地方屈指の大河川であるとともに、この地域を代表する「母なる川」として古くから人々の生活と密接な関わりを持ち、親しまれてきた河川である。九頭竜川の源は、福井県と岐阜県の県境の油坂峠(標高717m)に発し、九頭竜峡谷を経て大野盆地を北流し、大野市と勝山市との境付近で左支川真名川を合わせ、永平寺町鳴鹿にて福井平野に入り、そこから西流する。そして、福井市高屋において左支川日野川を合流し、流れを北西に転じ坂井市で日本海に注いでいる。

鳴鹿大堰は、九頭竜川の河口から約29km上流に位置しており、洪水の安全な流下と利水補給を目的としている。堰およびその貯水池の右岸側は坂井市、左岸側は永平寺町であり、下流には福井市が位置している。

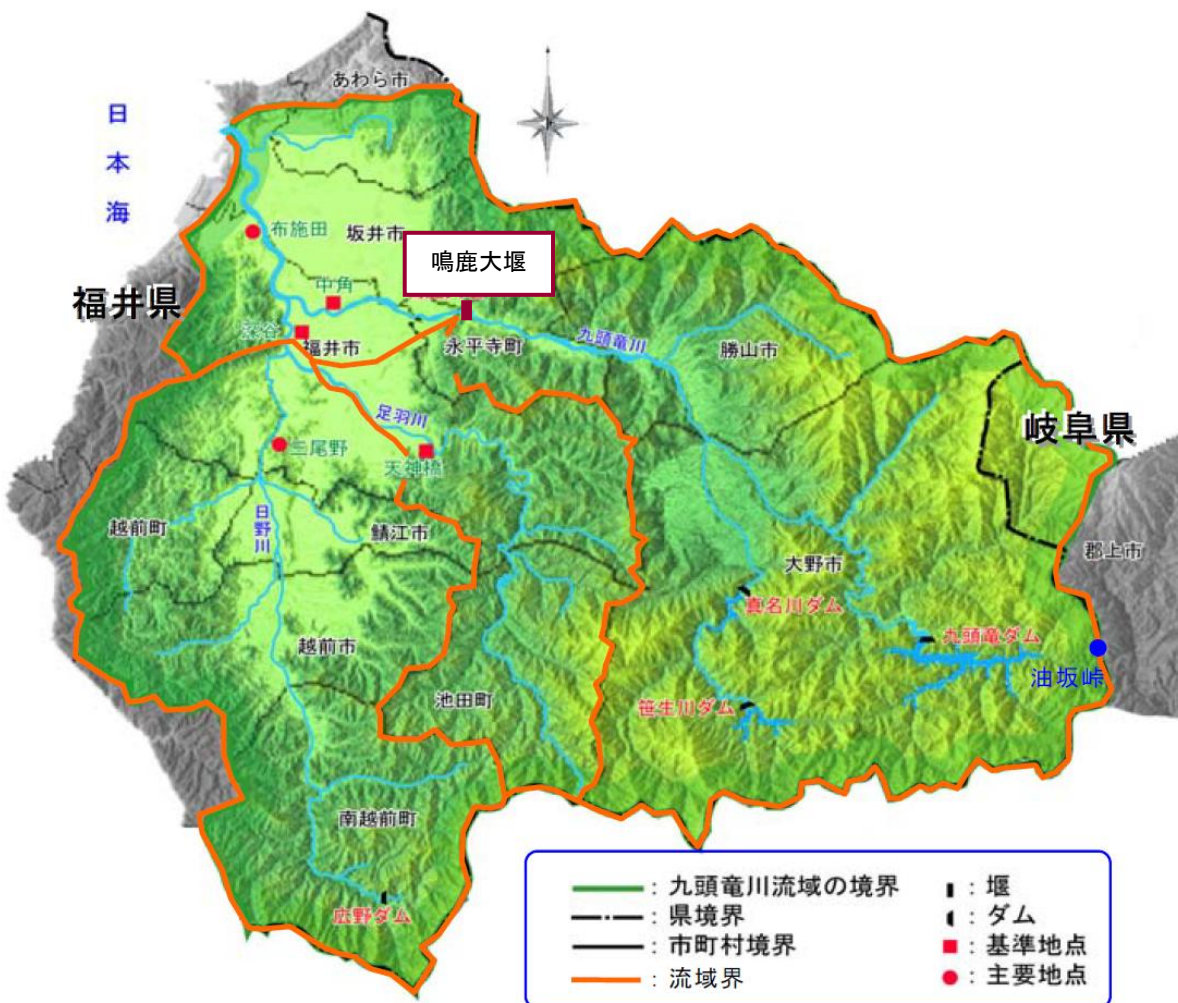


図 7.1-1 鳴鹿大堰周辺の概況

【九頭竜川水系河川整備計画、平成19年2月】

7. 堰と周辺との関わり

(2) 人口

九頭竜川流域内に位置する市町村、並びに福井市、坂井市、永平寺町における人口と世帯数の昭和30年(1955)から平成27年(2015)までの間の推移は、以下に示すとおりである。

流域内に位置する市町村の人口は昭和30年には約66万人であり、微増傾向を示してきたが、平成12年の約73万人をピークに近年では減少傾向に転じている。一方で、世帯数は増加傾向を続けており、核家族化が進んでいることが伺える。

また、鳴鹿大堰の近隣の市町村では、福井市が平成7年、坂井市が平成17年、永平寺町が平成12年にそれぞれ人口のピークを迎え、その後、減少に転じている。

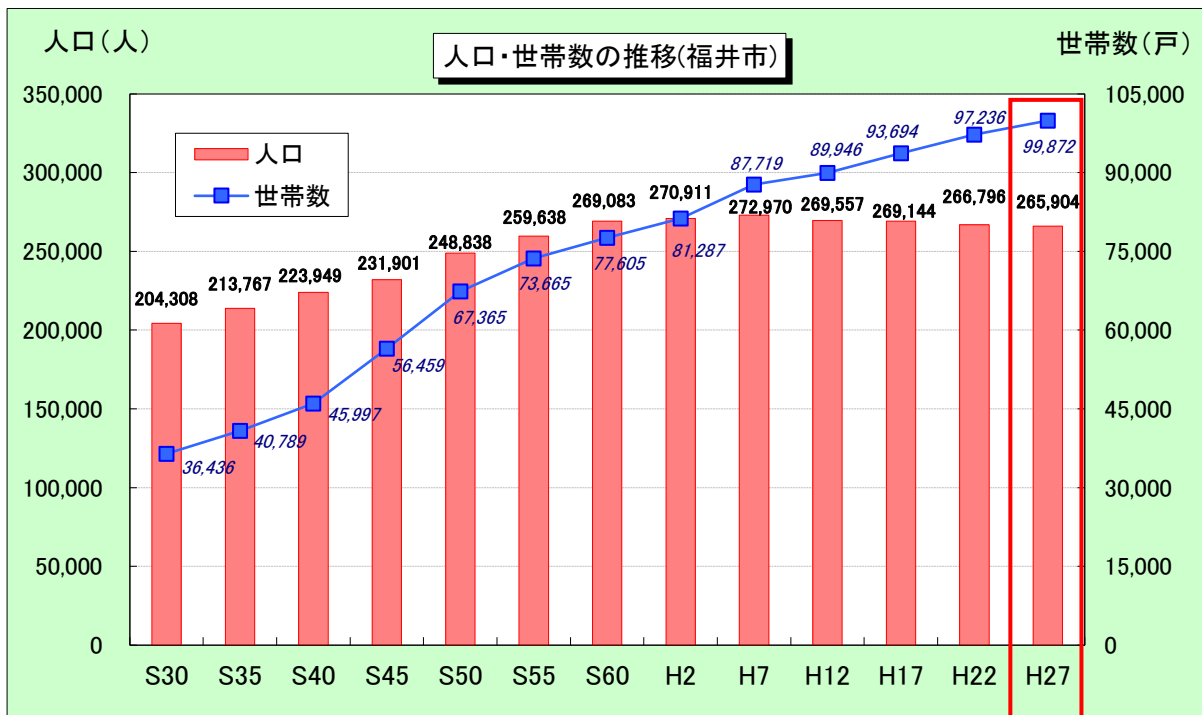
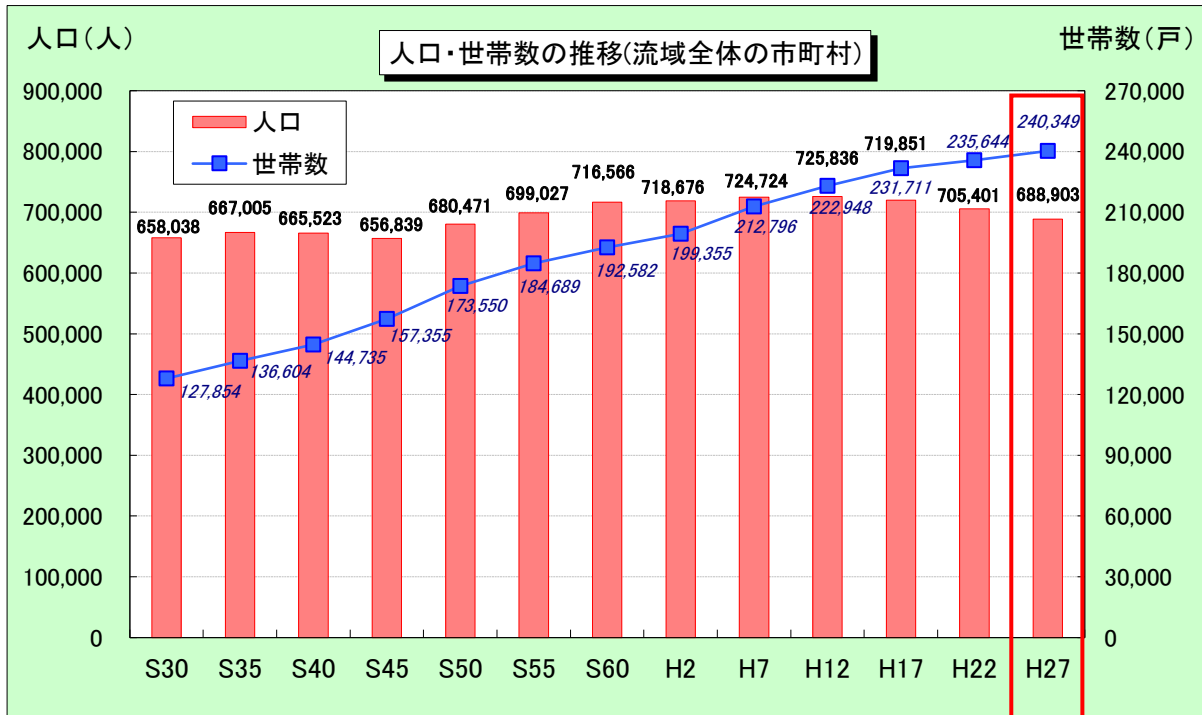


図 7.1-2 (1) 人口及び世帯数の推移

【出典：国勢調査結果、福井県統計年鑑、岐阜県統計書】

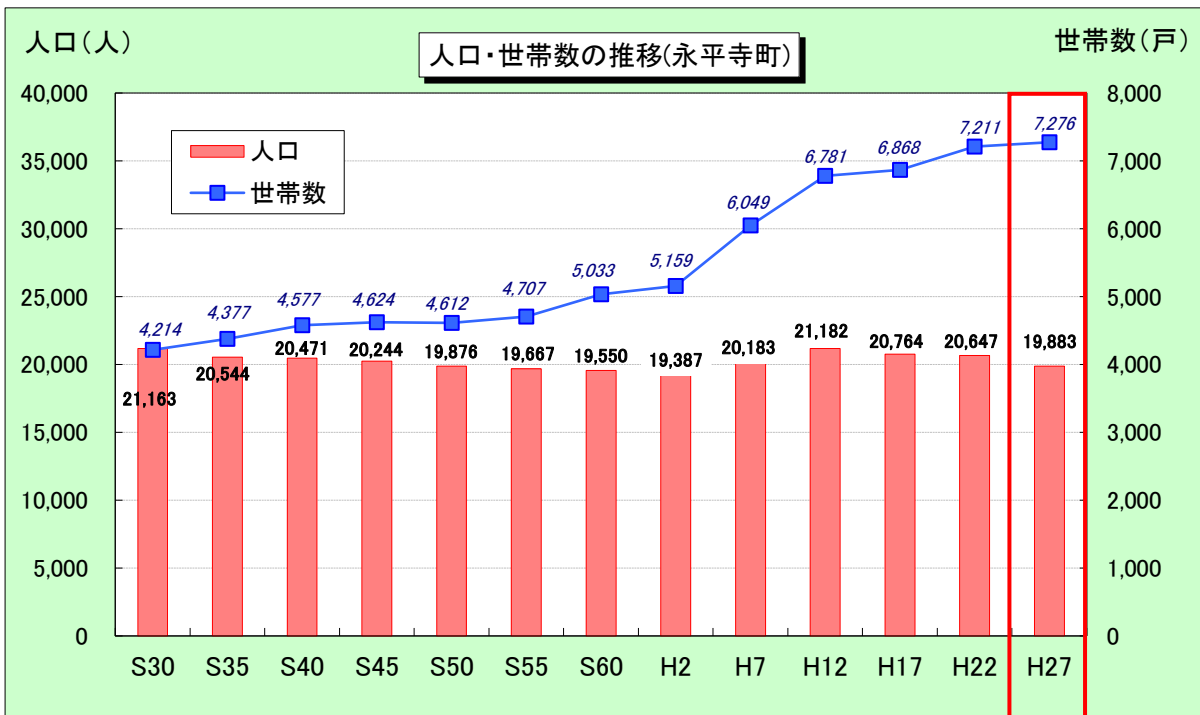
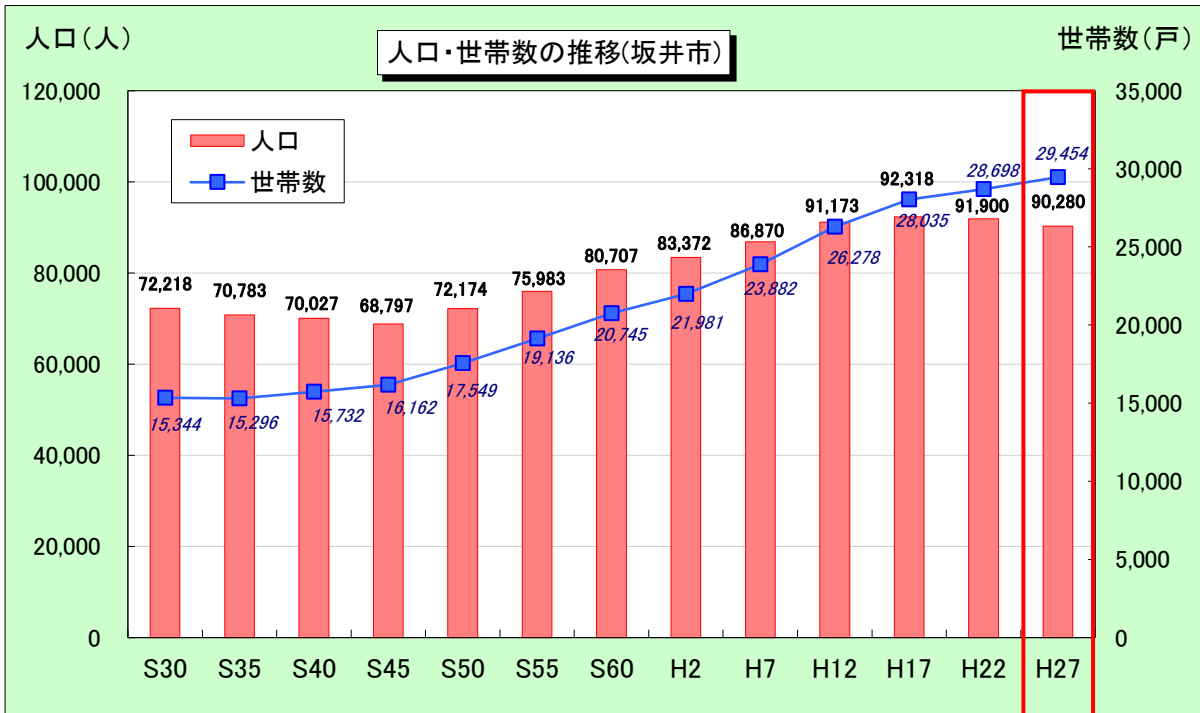


図 7.1-2 (2) 人口及び世帯数の推移

【出典：国勢調査結果、福井県統計年鑑】

7. 堰と周辺との関わり

(3) 産業

流域内に位置する市町村、並びに福井市、坂井市、永平寺町における産業別就業人口の昭和40年(1965)から平成27年(2015)までの間の推移は、以下に示すとおりである。

就業者人口は、流域全体および福井市、永平寺町においては、平成7年をピークに減少傾向を示している。坂井市では福井市等からの移住者等により、平成17年までは増加傾向にあったが、平成22年には減少に転じた。

産業別では、平成27年には第3次産業が全体の約60%強を占めており、第2次産業が30%強、第1次産業が約4%を占めている。近年の増減傾向を見ると、いずれの自治体でも1次産業、2次産業の就業人口は減少しており、3次産業は福井市では微減、坂井市と永平寺町では微増を示している。

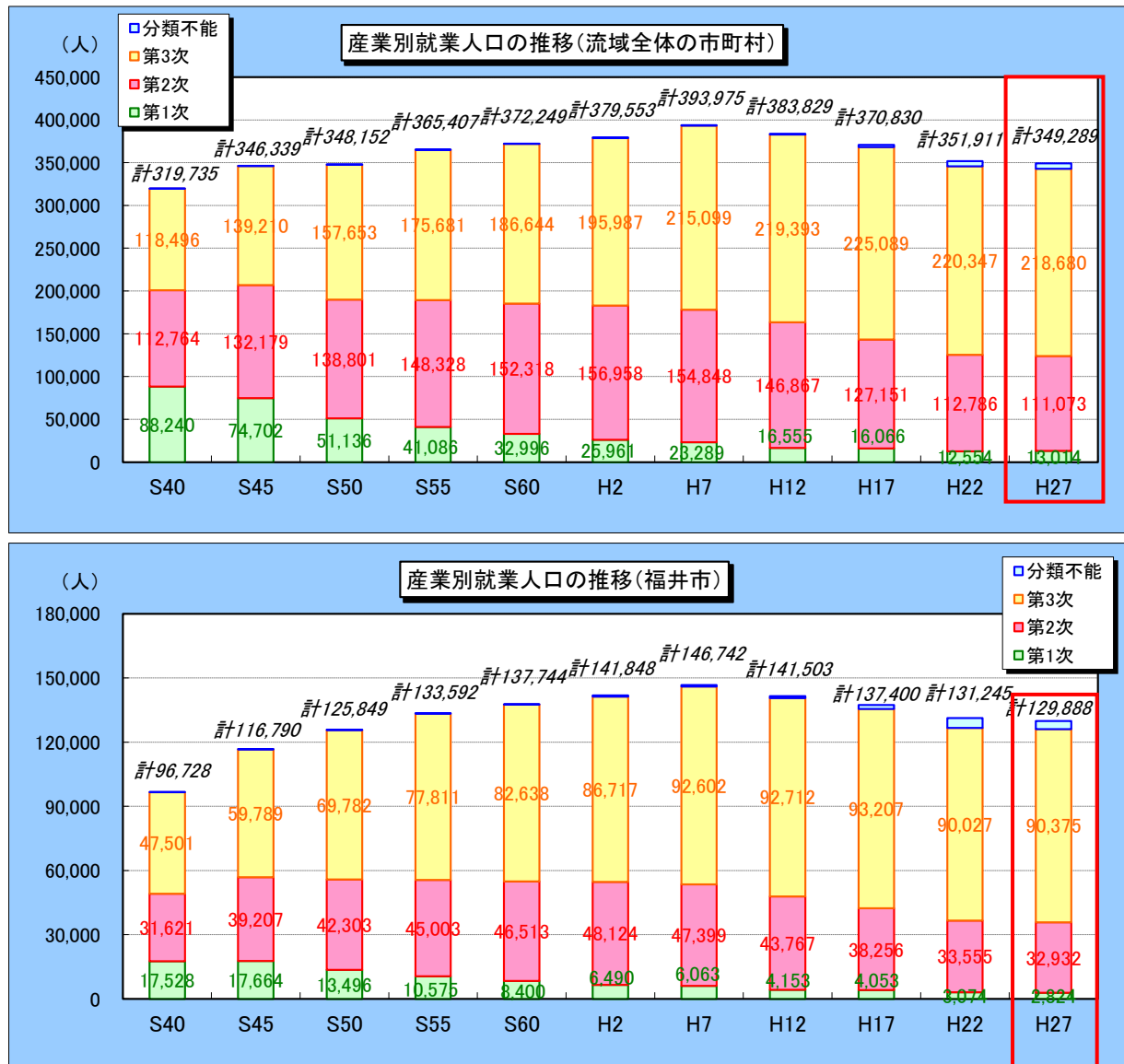


図 7.1-3 流域全体及び福井市の産業別就業人口の推移

【出典：国勢調査結果、福井県統計年鑑、岐阜県統計書】

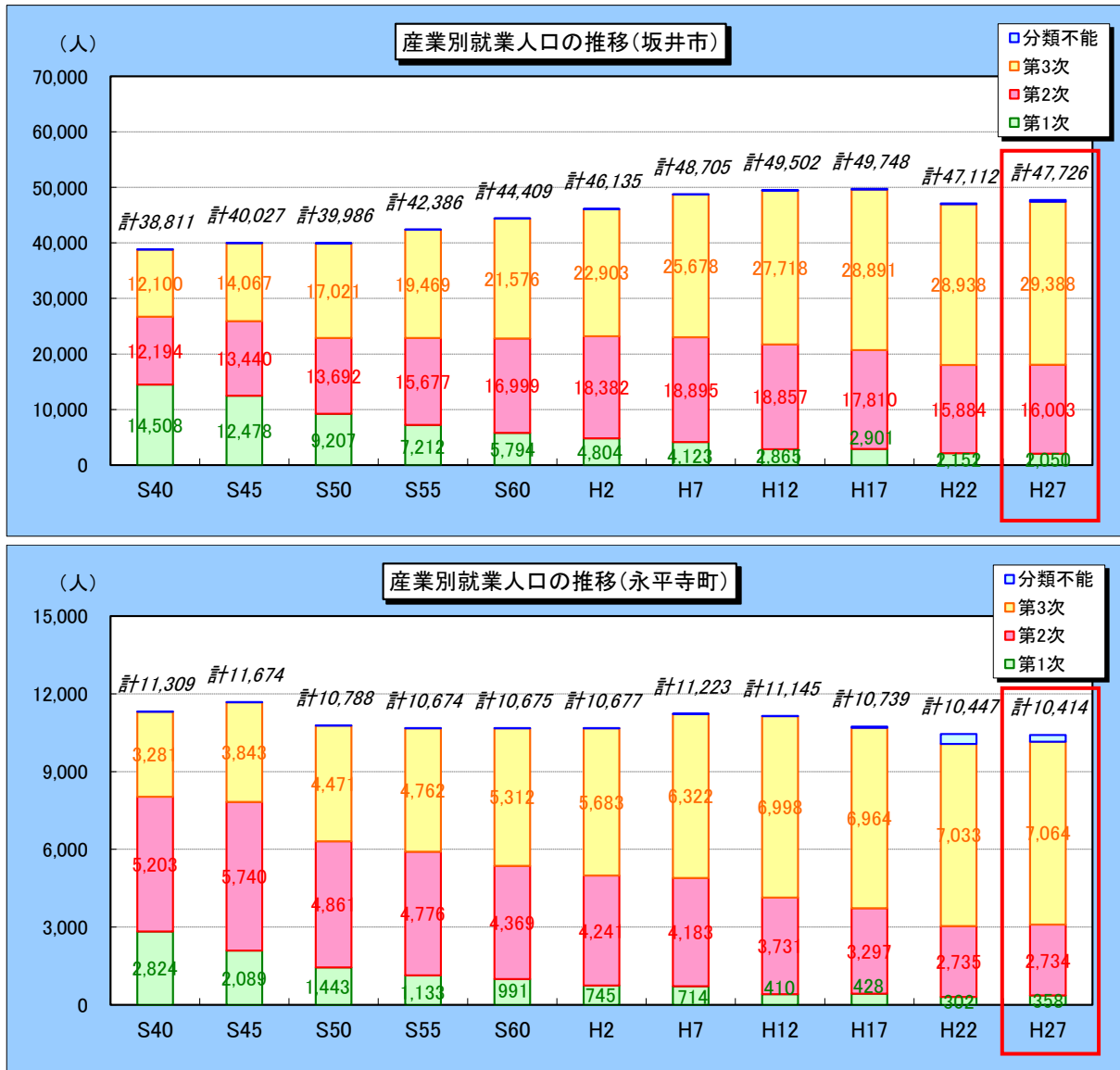


図 7.1-4 坂井市及び永平寺町の産業別就業人口の推移

【出典：国勢調査結果、福井県統計年鑑】

定期報告書(案)

7. 堰と周辺との関わり

7.1.2 堰の立地特性

(1) アクセス性

鳴鹿大堰は、九頭竜川の河口から約 29km 上流の坂井市と永平寺町の境に位置している。

鳴鹿大堰付近の交通網は図 7.1-5 に示すとおりであり、道路としては国道 416 号及び 364 号が近接して通り、堰の西には北陸自動車道が南北に、南には永平寺大野道路（中部縦貫自動車道）が東西に走っている。鉄道としては、堰の西方約 9km の地点を南北に JR 北陸本線が通り、福井駅から勝山へ向かう「えちぜん鉄道・勝山永平寺線」が九頭竜川の左岸沿いを通っている。

鳴鹿大堰へのアクセスは、鉄道利用ではえちぜん鉄道勝山永平寺線永平寺口から徒歩 15 分、車では北陸自動車道福井北インターチェンジから国道 416 号を通り約 15 分（約 5km）、JR 福井駅から約 25 分（約 11km）となっている。



【出典：近畿地方整備局管内道路網図】

図 7.1-5 鳴鹿大堰周辺の交通網

(2) 周辺の観光施設（スポット）等の状況

九頭竜川流域は、歴史・文化や水と緑などの自然に恵まれた観光地が多く点在し、平成28年度には福井県内に年間約1,652万人（福井県全体の約3,166万人の約52%）の観光客が訪れており、その代表的な観光資源としては以下が挙げられる。

【九頭竜川流域の代表的な観光資源】

天下の絶景として有名な東尋坊、全国的にも名高い芦原温泉をはじめとする各地の温泉、中世を今に伝える一乗谷朝倉氏遺跡・永平寺・平泉寺・丸岡城、恵まれた森と水を生かしたアウトドアレクリエーションが満喫できる九頭竜湖と九頭竜国民休養地や六呂師高原などといったキャンプ村・スキー場、北陸の秋の風物詩として人気の高いたけふ菊人形、広大な芝生の中にパットゴルフ場やオートキャンプ場などがあり1年中楽しめるレジャーランドの芝政ワールド、恐竜に関する国内最大級の規模を誇る福井県立恐竜博物館、等が挙げられる。



図 7.1-6 主な名所・旧跡及び古社寺等の位置

表 7.1-1 観光入込の推移

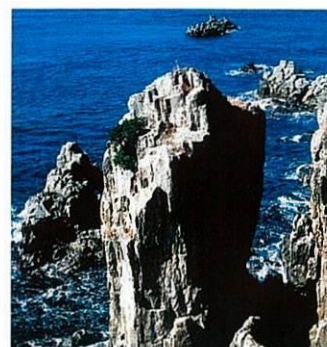
年次	観光入込客数（千人）		
	福井県全県	九頭竜川流域	全県に占める割合（%）
H25	24,342	17,014	69.9
H26	26,253	18,389	70.0
H27	29,956	21,598	72.1
H28	31,657	22,844	72.2



大野城（大野市）



丸岡城（坂井市）



奇岩・奇磯が連なる東尋坊（坂井市）



西山公園（鯖江市）



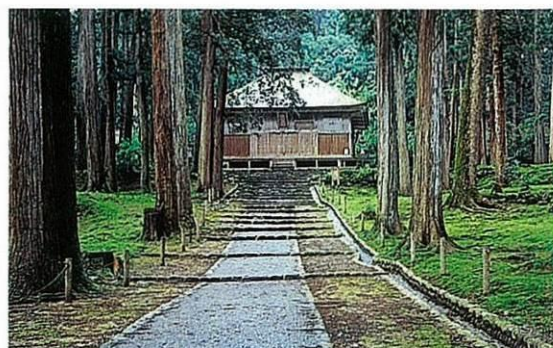
ブランドピア（越前町）



謡曲「花篋」の舞台ともなった花篋公園（越前市）



狭野茅上娘子と中臣朝臣宅守との相聞歌碑が建つ味真野苑（越前市）



白山平泉寺（勝山市）

【出典：九頭竜川流域誌 水との闘い そして共生】

定期報告書(案)
7. 堰と周辺との関わり



足羽川左岸堤防の桜 (福井市)



勝山橋上下流の弁天堤の桜 (福井市)



福井県総合グリーンセンター (坂井市)



福井藩主の菩提寺である大安禅寺 (福井市)



歴代藩主の廟所がある千畳敷 (福井市)



一乗谷で復元された武家屋敷と町屋 (福井市)



江戸中期の代表的庭園養浩館 (福井市)



三間社流造りの滝谷寺 (坂井市)



曹洞宗大本山永平寺 (永平寺町)



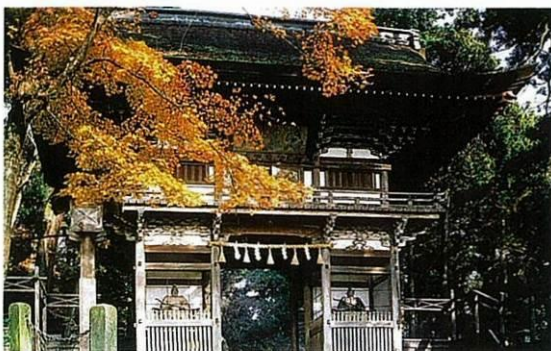
複雑な形をした屋根の大滝神社 (越前市)



江戸初期の秀麗な姿をとどめる劔神社 (越前町)



楼門形式の山門のある宝慶寺 (大野市)



継体天皇を合祀する三国神社 (坂井市)



継体天皇を合祀する足羽神社 (福井市)

【出典：九頭竜川流域誌 水との闘い そして共生】

定期報告書(案)

7. 堰と周辺との関わり

7.2 堰事業と地域社会情勢の変遷

鳴鹿大堰関連事業と地域社会情勢の変遷の概況は表 7.2-1 に示すとおりである。

表 7.2-1 鳴鹿大堰事業と地域社会情勢の変遷

年	鳴鹿大堰関連事業	地域の出来事
H 元.	5月 実施計画調査に着手。 福井工事事務所に開発調査課(鳴鹿大堰担当)設置。 九頭竜川本川区域延長 1.6km。合計 31.2km となる。	福井市市制 100 周年記念式典 福井市都市景観基本計画策定
H 2	1月 九頭竜川中流堰建設促進期成同盟会が発足 6月 九頭竜川鳴鹿大堰建設事業に着手 12月 大野市がダム使用権設定について申請書提出	足羽川・足羽山公園が「日本の桜百選」に選定、桜づつみ事業着手
H 3	11月 基本計画告示(事業費 280 億円、工期平成 8 年度)	足羽山トンネル完成 一乗谷朝倉氏庭園が国の特別史跡に指定
H 4	11月 鳴鹿大堰起工式 右岸取水施設改築工事着手	第四次福井市総合計画スタート
H 5	3月 左岸取水施設改築工事着手	
H 6	3月 九頭竜川鳴鹿大堰本体着工 本体ゲート着工	すかつとランド九頭竜オープン
H 7	3月 中部漁業協同組合と、漁業補償の契約を締結 4月 九頭竜川鳴鹿大堰定礎式 6月 本体工右岸部概成 10月 本体工左岸部概成	
H 8	6月 堰本体概成	
H 9	3月 九頭竜川鳴鹿大堰建設に伴う鳴鹿頭首工(取水施設を含む)の工事施行の変更協定書を締結。	
H 10	2月 基本計画変更が官報告示される。	
H 11	3月 試験湛水(暫定運用)開始 通水式挙行 10月 旧堰撤去(左岸部)工事着手	
H 12	8月 左岸魚道完成	
H 13	6月 旧堰撤去(右岸部)完了	
H 14	4月 資料館がオープン	21 世紀を拓くふくい創造プラン(第 5 次福井市総合計画)スタート
H 15		えちぜん鉄道全線開通
H 16	3月 竣工	福井豪雨災害発生

【出典：九頭竜川鳴鹿大堰工事誌、福井県ホームページ】

7.3 堰と地域の関わりに関する評価

7.3.1 地域における堰の位置づけに関する整理

(1) 坂井市総合計画

平成 18 年 3 月 20 日、旧三国町、旧丸岡町、旧春江町、旧坂井町は、地理的、歴史的特性を共有しつつ、地域の特性を活かしながらより広域的な視点でまちづくりを推進していくことを目指して合併し、「坂井市」が誕生した。坂井市では、市の行政運営の指針となる「坂井市総合計画」を平成 20 年 3 月に策定している。

同計画では、まちづくりの方針として 3 つの軸を定めており、そのうち「水と緑の交流軸」では、福井県のシンボル河川である九頭竜川等を活かし、親水空間などの整備に努め、水と緑の交流軸を形成していくとしている。

また、平成 25 年 3 月には、平成 25 年度から平成 29 年度を計画期間とする坂井市総合計画後期基本計画を策定しており、基本構想で定めている 8 つの施策の大綱を実現するために、前期基本計画の達成状況の検証、施策体系の見直し等を実施している。

● 3つの軸

■にぎわいの連携軸

東西に長い坂井市の一体性や連携を強化するため、東西方向の骨格道路網を形成し、住民相互の日常的な交流や文化交流などを促進するとともに、坂井市の活力を創造する都市活動、観光交流などを展開します。

■南北交流軸

一般国道 8 号をはじめとする南北方向の骨格道路網を充実し、地域や圏域を越えた広域的な交流を推進していきます。

また、坂井市域内においても幹線道路の拡幅整備や沿道環境整備に努め、住民相互の日常的な交流や文化交流などの促進、活力を創造する都市活動などを展開し、市域内の連携と一体性を高めていきます。

■水と緑の交流軸

緑豊かな森林地域を源流とする竹田川や福井県のシンボル河川である九頭竜川、坂井平野を潤す数々の河川、さらには農業用水路のパイプライン化にともなう跡地を活かし、散策路や自転車道、親水空間などの整備に努め、水と緑の交流軸を形成していきます。

図 7.3-1 坂井市総合計画 まちづくりにおける3つの軸

【出典：坂井市総合計画後期基本計画 平成 25 年 3 月】

(2) 第二次永平寺町総合振興計画

永平寺町では、平成 29 年度以降 10 年間のまちづくりの指針を示した「第二次永平寺町総合振興計画」を平成 29 年 3 月に策定している。

同計画では、「めぐる感動 心つながる清流のまち えいへいじ」をまちづくりの将来像に掲げ、九頭竜川等の観光資源活用の推進、九頭竜川における内水面漁業の振興などに関する施策を示している。

【出典：第二次永平寺町総合振興計画 平成 29 年 3 月】

定期報告書(案)

7. 堰と周辺との関わり

7.3.2 地域と堰管理者の関わり

福井河川国道事務所では、鳴鹿大堰と九頭竜川に親しみながら自然を学ぶための環境学習を実施しており、地域との交流を図っている。

川の生き物見つけた！
福井親子55人、水質など調査

河川の水質や生物の状況について理解を深めてもらおうと国土交通省福井河川国道事務所は28日、福井市の九頭竜川で水生生物調査を行った。県内の小中学生と保護者約55人が生き物や水質などを調べた。調査は1984年から毎年実施している。この日は天池河川公園前と福井大橋下流の2カ所を調査した。参加者は

網やざるを使って川底の生き物を捕獲。ヒゲナガカワトビケラやキイロカワカゲロウなどを見つけ、小さな容器に入れていった。

その後、捕まえた生物の種類や数をまとめ、I（きれいな水）からIV（とてもきたない水）の4段階で水質を評価。結果は2カ所ともIの「きれいな水」だった。

石の裏の生き物を探す
参加者＝28日、福井市
天池町の九頭竜川

初めて参加した吉村秋平くん（同市松本小4年）は「思ったより水がきれいだった。夢中になって生き物を探した」と笑顔をみせた。（山本雅史）



【出典：平成27年度新聞記事スクラップ、福井河川国道事務所（福井新聞、平成27年8月3日）】

7.4 堰周辺の状況

7.4.1 堰周辺の施設状況

(1) 概要

鳴鹿大堰周辺の施設としては、九頭竜川に関するさまざまな資料を展示している九頭竜川流域防災センター、階段式魚道の様子がみられる魚道観察室、旧鳴鹿堰堤の堰柱を利用して造られた見学橋、鳴鹿橋上流部左岸側（30.5～30.9km 付近）に設けられたビオトープ等を整備した。

(2) わくわく RiverCan（九頭竜川流域防災センター）

「わくわく RiverCan（九頭竜川流域防災センター）」は、鳴鹿大堰左岸にある鳴鹿大堰管理所脇に建設され、平成 14 年 4 月 27 日にオープンした。この資料館は、地域の子供たちが九頭竜川について体験的に学べるよう九頭竜川に関する様々な資料を展示するとともに、九頭竜川流域の方々が集える場所として活用することを目的としている。また、土日祝日については NPO 法人「ドラゴンリバー交流会」に依頼して運営している。



図 7.4-1 わくわく RiverCanの外観



図 7.4-2 わくわくRiverCanの館内案内

(3) なるほど！鳴鹿大堰ふれあいゾーン

「なるほど！鳴鹿大堰ふれあいゾーン」は、鳴鹿大堰管理所1階のエントランス部を利用した展示施設である。鳴鹿大堰管理所エントランス部は、完成当初より鳴鹿大堰の役割やしきみについて解説するための展示スペースとして利用されていたが、平成17年度に展示内容の更新が行われ、より一層充実した内容となった。

展示は鳴鹿大堰の歴史、鳴鹿大堰の役割、鳴鹿大堰魚道のしきみについて解説するものであり、電動模型や映像などを活用し、子供から大人まで楽しめる内容となっている。



図 7.4-3 「なるほど！鳴鹿大堰ふれあいゾーン」

定期報告書(案)

7. 堰と周辺との関わり

(4) 魚道観察室

鳴鹿大堰には、階段式魚道、人工河川式魚道（平常用）及びデニール式魚道（渇水時の呼び水水路の水量減少時）の3種類の魚道が設けられており、魚が魚道をのぼっていく様子を観察できるよう、階段式魚道の横に観察室が設置されている。魚道観察室は一般に開放されており、九頭竜川流域防災センターと一体の運営が行われている。また、魚道にはライブカメラが設置されており、わくわく RiverCan（九頭竜川流域防災センター）の中からも魚道の様子を観察することができる。



(5) 見学橋

旧鳴鹿堰堤は、昭和29年に完成し、福井平野の利水にとって約半世紀の歴史ある施設であったため、利水の歴史を残す意味からも、旧鳴鹿堰堤関連施設のうち、利用可能な管理橋・堰柱を完全に撤去せず、見学橋としてほとんど原形で使用している。

見学橋からは、堰直上流から鳴鹿大堰を眺望することができ、全国的に見ても珍しい施設である。



図 7.4-4 一般解放区及び見学橋の外観

(6) ビオトープ

鳴鹿橋上流部左岸側(30.5~30.9km 付近)に「自然な河川草地のビオトープ」をコンセプトにビオトープを整備した(平成14年5月完成)。



図 7.4-5 ビオトープの整備位置

表 7.4-1 ビオトープの整備方針

整備方針	
植生	九頭竜川流域でよく見られる「自然な河川草地」を復元する中で、環境教育の場をつくり、周辺流域にある重要種を保存する場を確保する。 ○基本的植生：ツルヨシ、クサヨシ、オギ、ミゾソバ等 ○重要種植生：カワヂシャ、フジバカマ、ミクリ
基本的植生を復元する区域	手入れを行い安全に子供たちが入ることのできる場所と、より自然な姿で管理する場所に区分する。高木植栽が可能な箇所でのカワヤナギ、タチヤナギの復元、また堤防側のエノキ林の復元を検討する。
湧水池の築造	湧水池は水質の変化による環境の多様化を意図して、水位の異なる3つの池に分割する。
高水敷の地形	現状の棚田状地形を利用し、わずかな高低差をつけることで、植生を多様化する。
草本類の移植	地域に特有の遺伝子を残す意味で、現場に生えている草本類を地下茎ごと取って保管し移植する。
住民参加	自然環境の復元を住民参加の移植作業等により促進し、河川敷の自然環境を住民参加の管理により維持していく。
子供たちとの関わり	計画地周辺のモニタリング調査を近隣の小・中学校の課題とし、ビオトープの生物学的な評価を任せることも考えられる。さらに、その結果からビオトープの目標生物についてさらに詳しく検討することは、地域住民との双方向的なコミュニケーションを重視した、柔軟な河川環境整備手法である。

定期報告書(案)

7. 堰と周辺との関わり

○ 整備直後の状況



2
年
後

○ 整備2年後の状況



9
年
後

○ 整備11年後の状況



5
年
後

○ 整備16年後の状況



図 7.4-6 ビオトープの整備状況

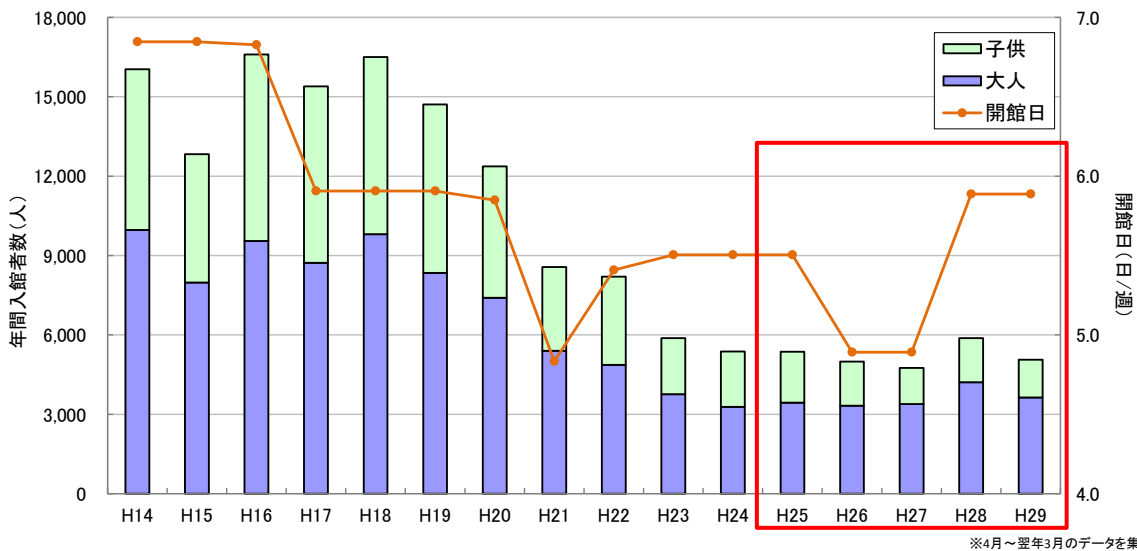
7.4.2 堰周辺の施設の利用状況

(1) 施設の利用状況

「わくわく RiverCan (九頭竜川流域防災センター)」の平成 14 年 4 月 27 日の開館から平成 29 年 3 月 31 日までの入館者数の推移を以下に示す。

平成 29 年は 5,228 人が利用しており、平成 14 年 4 月 27 日の開館以来の総入館者数は 10 万人を超え、平成 29 年には累計 158,511 人となった。年間入館者数は、広報 P R の休止、イベントの減少、開館日の減少等が要因で平成 21 年以降は減少したが、近年は NPO 法人ドラゴンリバー交流会等と協働した運営によるイベントの増加や開館日の増加、広報 P R の再開に伴い、減少傾向にあった入館者数に歯止めがかかりやや回復しつつある。

利用者の年齢層をみると、大人の割合が少し高く、本施設は子供から大人まで幅広い年齢層に利用されていることが分かる。月別入館者数をみると、大型連休のある 5 月と夏休みの 8 月に多く、12 月から 2 月の冬期に少なくなる傾向がみられる。



※4月～翌年3月のデータを集計

図 7.4-7 わくわく RiverCan (九頭竜川流域防災センター) 入館者数 (H14年度～H29年度)

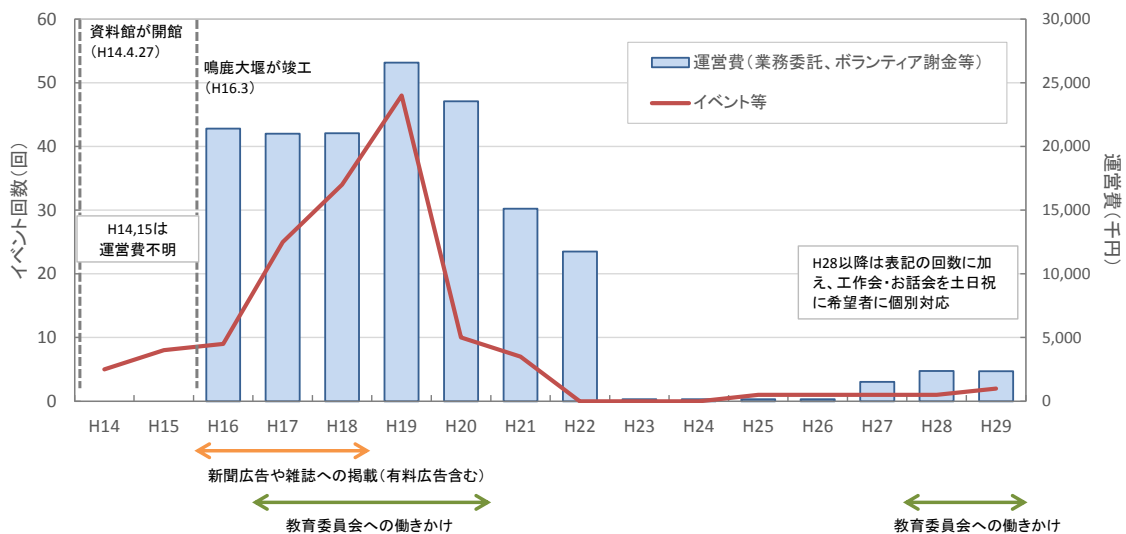


図 7.4-8 わくわく RiverCan (九頭竜川流域防災センター) の運営費およびイベント実施状況

7. 堰と周辺との関わり

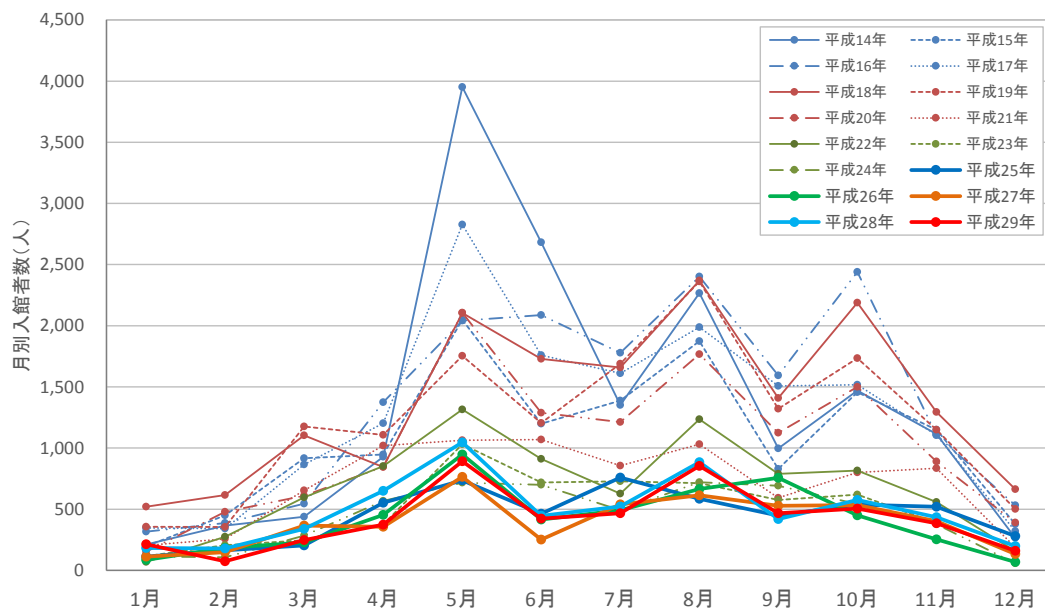


図 7.4-9 わくわくRiverCan（九頭竜川流域防災センター）の月別入館者数

平成 14 年から 29 年までの「わくわく RiverCan」の見学団体数および見学者数を図 7.4-10 に示す。

団体としての見学は学校関係の団体の見学が多く、その他に行政関係、自治関係、福祉関係の団体が見学を行っている。

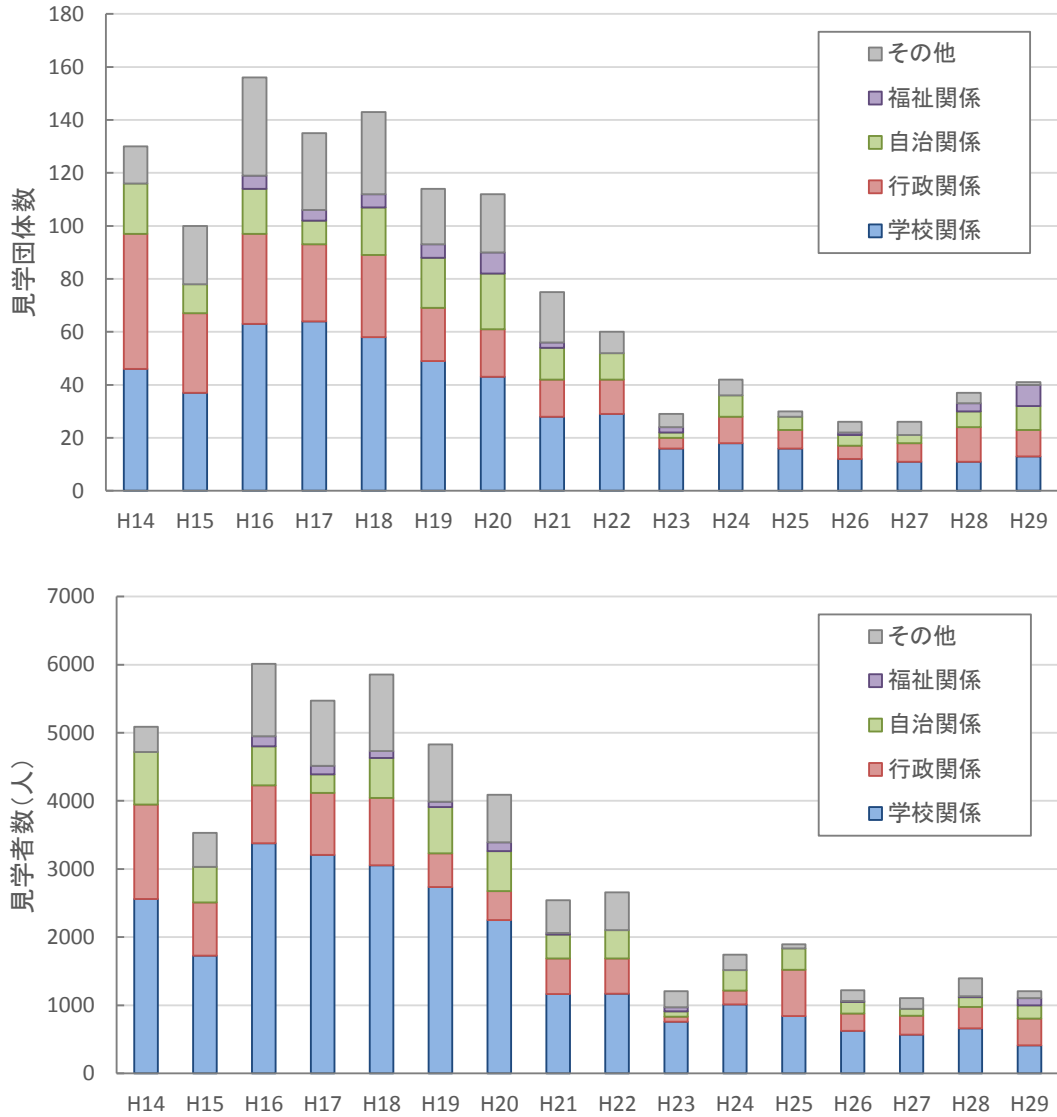


図 7.4-10 わくわくRiverCanの見学団体数および見学者数

【出典：鳴鹿大堰管理所提供データ（種類別見学団体数・人数）】

定期報告書(案)

7. 堰と周辺との関わり

(2) 利用内容

1) イベントの開催

「わくわく RiverCan (九頭竜川流域防災センター)」や鳴鹿大堰、九頭竜川周辺ではさまざまなイベントが実施されている。平成 29 年度のイベントおよび環境学習の実施状況を表 7.4-2 に示す。

表 7.4-2 イベント・環境学習実施状況

月 日	イベント名	目的・内容
7/7 (金)	水辺で乾杯	鳴鹿大堰前の広場に住民ら約 300 名が集まり、地酒や天然アユの塩焼き、サクラマスの葉っぱ寿司などを楽しんだ。
7/26 (水)	川の生き物を調べよう in 九頭竜川・北川	水生生物の種類や簡易水質キットを用いた水質調査等を行い、調査を通じて身近な河川に対する関心を高める。
8/6 (日)	第 21 回「九頭竜川に親しむ会」	NPO 法人ドラゴンリバー交流会が主催するイベントであり、紙芝居やものづくり体験、永平寺川の生き物調べ等を通して九頭竜川に親しむことを目的としている。



水辺で乾杯を紹介する新聞記事 (福井新聞)

【出典：第 21 回「九頭竜川に親しむ会」のご案内、福井河川国道事務所 HP 記者発表資料、平成 29 年度新聞記事スクラップ (福井新聞)】

2017年7月7日午後7時7分 水辺で乾杯 ミズベリングプロジェクト
今年は九頭竜川と足羽川で一斉に同時に乾杯！



今年は水辺でフライデー！ 水辺で乾杯
場 所：足羽川幸橋の上流北側
参加者：約150人
主 催：リバビズ大学in日野川流域交流会



九頭竜川で乾杯！
場 所：九頭竜川鳴鹿大堰前広場
参加者：約300人
主 催：ドラゴンリバー交流会



水辺で乾杯の実施状況

川に棲む生き物を調べよう！ 九頭竜川・北川の水生生物調査

～調査第一課～

H27. 7. 28、8. 5

調査概要

九頭竜川・北川で地元の小・中学生や地域住民と一緒に水生生物調査を行いました。川に棲む生き物を調べることで、「水のきれいさ」を知ることが出来ます。

この水生生物調査を機会に川の大切さや自然環境の保全への関心をもつきっかけになればと考えています。

【九頭竜川】

日時：平成27年7月28日（火）

参加者：55名 [大人14名、小中学生41名]

調査箇所：天池河川公園前、福井大橋下流、鳴鹿橋上流

(鳴鹿橋上流は天候不良により一般参加者による調査は中止)

講師：奥村 充司先生（福井工業高等専門学校准教授）

事務局：28名 [国土交通省：3名、コンサルタント：25名]

【北川】

日時：平成27年8月5日（水）

参加者：34名 [大人10名、小学生24名]

調査箇所：高塚橋、天徳寺橋、三宅橋

事務局：25名 [国土交通省：4名、コンサルタント：21名]



現地調査

九頭竜川（2地点）及び北川（3地点）において、水生生物調査を実施しました。実際に川の浅瀬に入り、水生生物の採集や、川の流速・水温及び透視度の調査などを行いました。



福井大橋下流(九頭竜川)



高塚橋(北川)



透視度計による調査(北川)

調査のとりまとめ（講師：奥村 充司 ※九頭竜川の調査のみ）

調査地点から試料を持ち帰り、水生生物の同定作業や簡易水質測定（パックテスト）などを行い、最後に奥村准教授に講評して頂きました。調査結果は以下のとおりとなりました。



水生生物の同定作業



講評の様子(奥村氏)

【九頭竜川】

天池河川公園前(右岸19.5km付近)：水質階級 I (きれいな水)

福井大橋下流 (左岸22.0km付近)：水質階級 I (きれいな水)

鳴鹿橋上流(右岸31.2km付近)：水質階級 I (きれいな水)

【北川】

高塚橋 (右岸 4.0km付近)：水質階級 I (きれいな水)

天徳寺橋 (左岸10.2km付近)：水質階級 I (きれいな水)

三宅橋 (右岸13.2km付近)：水質階級 I (きれいな水)

【問い合わせ先】

国土交通省 近畿地方整備局
福井河川国道事務所 調査第一課
〒918-8015
福井市花堂南2-14-7
TEL 0776-35-2771





第21回「九頭竜川に親しむ会」

定期報告書(案)

7. 堰と周辺との関わり

2) 小学校からの見学

「わくわく RiverCan (九頭竜川流域防災センター)」では、小学校からの見学を受け入れており、地域の子供たちの防災・環境教育に貢献している。見学した子供達から感謝状をもらい、鳴鹿大堰の役割や環境について理解が深まったとの声が届いている。

〈見学した子供たちの感想〉

- ・「鳴鹿大堰のことを知って「そうなんだ。」「そうだったんだ。」などと思いました。」
- ・「鳴鹿大堰が雨が降っているときはあふれないように流れやすくして、いつもはゲート閉じて水の量を調節しているなんて知りませんでした。」
- ・「2つの魚道があって、力の強い魚が通る階段式魚道、力が弱い魚が通る人工河川式魚道、2つとも魚が安全に上れるのでとてもいいなと思いました。」



図 7.4-11 見学した小学校からいただいた感謝状

3) ダムカードの配布

鳴鹿大堰管理所、及び「わくわく RiverCan (九頭竜川流域防災センター)」ではダムカードの配布が行われている。ダムカードの配布数は近年増加傾向にあり、平成 29 年度の配布数は合計 2,370 枚であった。近年の配布数の推移を図 7.4-12 に示す。

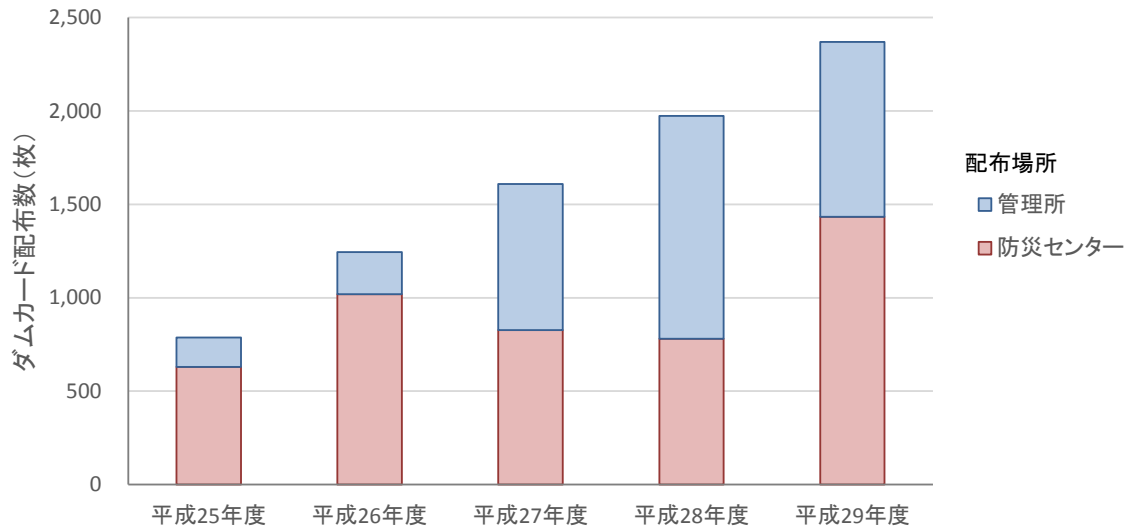


図 7.4-12 ダムカード配布数の推移

【出典：鳴鹿大堰管理所提供データ (ダムカード配布数)】

4) 自転車の駅

九頭竜川堤防上の自転車歩行者専用道の利用を促進するために、わくわく RiverCan は「自転車の駅」としての認定を受け、自転車用の空気入れや簡易工具の貸し出し、トイレの提供を行っている。



「自転車の駅」に認定



図 7.4-13 堰周辺の自転車の利用環境

定期報告書(案)

7. 堰と周辺との関わり

(3) 利用者からの意見・要望

「わくわく RiverCan (九頭竜川流域防災センター)」の利用者から平成 25 年から平成 29 年の間に寄せられた主な意見および要望を以下に整理した。

表 7.4-3 利用者からの意見・要望

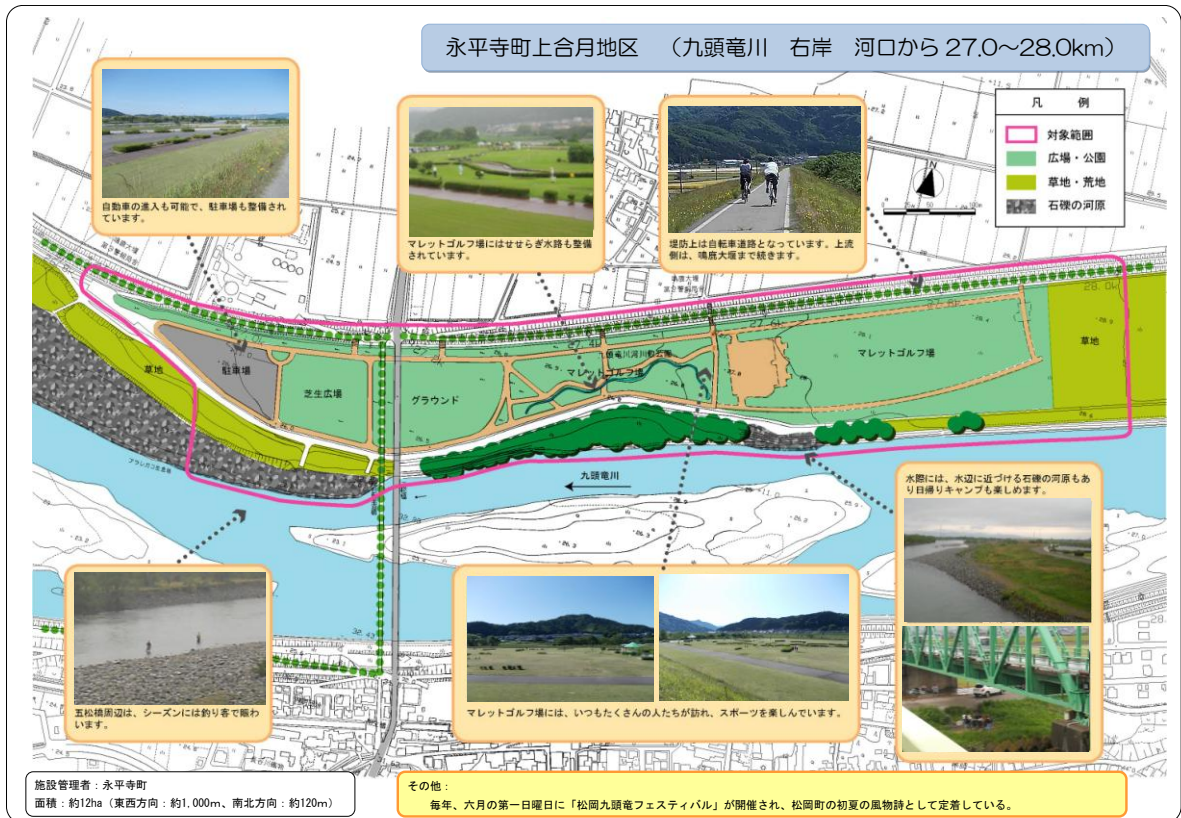
施設	<ul style="list-style-type: none"> ・おしゃれなデザインで何度見学しても飽きない ・立派な施設なので子どもたちにも見学させたい ・駅から防災センターの案内図が無くて困った ・近所に住んでいるが来た事がなく、こういうセンターがあるとは知らなかった ・自然豊かでとても良い環境の中、魚やダムについて身近に学ぶことが出来て良いと思う。また利用したい ・天気がよければ外で散歩もできて、車イスの人でも気持ちよくすごせる場所だ
展示内容	<p>【全般】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「子ども」が気に入ると何度も来てもらえる資料館になる ・防災についての意識が高まった ・子どもと一緒に来たい ・魚やゲームをもっと増やしてほしい ・水や魚などとふれあえる所があるといい ・体験できるコーナーが多くあって楽しい ・釣堀とかもう少し充実して欲しい ・魚に餌をやれる施設が欲しい <p>【展示物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災センター建設に至る経緯がビデオを通して詳しく学べた ・子ども達が見たりふれたりできる展示があり、とても良かった ・ダムの仕組みを学べるといい ・手作りのすごろく、クイズ、魚釣り占いなど子どもが楽しめる物がありたくさん遊べた ・九頭竜川の魚類を見ることができてよい ・アラレガコを水槽に入れてほしい ・アニメの鳴鹿大堰説明ビデオを見ることができてよい(主に小学生) ・床の地図が良かった ・パソコンやおもしろい機械やゲームがあってとても楽しかった ・アラレガコに会えて幸せでした ・置物などがかわいい
説明	<ul style="list-style-type: none"> ・九頭竜川の資料を増やしてほしい ・九頭竜川に関係する施設などの資料が欲しい
広報・PR	<ul style="list-style-type: none"> ・ダムカードをいただけただのがよかった ・来館の記念スタンプがあるとよい

【出典：九頭竜川鳴鹿大堰フォローアップ年次報告書】

7.5 河川水辺の国勢調査（河川空間利用実態調査）結果

九頭竜川では、3年毎に河川水辺の国勢調査（河川空間利用実態調査）を行い、河川の利用状況を調査している。

鳴鹿大堰の近隣では、下流の松岡河川公園（永平寺町上合月地区、27.0～28.0km）において利用実態調査が行われている。同公園では、マレットゴルフ場を中心に芝生広場やせせらぎ水路等が整備されており、平成26年度調査によると、主に散策、マレットゴルフ、水遊び、魚釣り等に利用されている。利用者数は、推計値で32,888人となっている。



【出典：平成26年度 九頭竜川河川水辺現地調査（植物）他業務報告書 平成27年3月】

図 7.5-1 鳴鹿大堰周辺の利用状況

表 7.5-1 九頭竜川河川敷公園（27.0～28.0km）の平成26年度年間利用者数（推計値）

	利用形態別				利用場所別				合計
	スポーツ	釣り	水遊び	散策等	水面	水際	高水敷	堤防	
利用者数	27,373	1,752	24	3,739	1,421	355	30,175	937	32,888

（単位 人）

【出典：平成26年度 九頭竜川河川水辺現地調査（植物）他業務報告書 平成27年3月】

7. 堰と周辺との関わり

7.6 川の通信簿調査の結果

平成26年の河川空間利用実態調査と併せて、下流の松岡河川公園（永平寺町上合月地区、27.0～28.0km）において川の通信簿調査が行われた。

この結果、総合的な成績は、四つ星（相当良い）と高い評価を受けている。

川の通信簿（永平寺町上合月地区）

～川の親しみやすさの成績表～
川の通信簿

個所名：九頭竜川 永平寺町上合月地区

スポーツやレクリエーションを楽しもう！ 広々とした河川空間

■永平寺町上合月地区はこんな所

河川名	1級河川九頭竜川水系九頭竜川左岸27.0K～28.0K
所在地	福井県吉田郡永平寺町上合月
アクセス	えちぜん鉄道勝山永平寺線 松岡駅より徒歩約10分
面積	約12ha
管理者	永平寺町
特徴	松岡河川公園として、マレットゴルフ場を中心に芝生広場やせせらぎ水路、駐車場などが整備されている。 五松橋より下流側の水際には、石礫の河原があり、自動車による河川敷へのアプローチが可能である。 毎年、六月の第一日曜日に「松岡九頭竜フェスティバル」が開催される。
主な利用	散策、マレットゴルフ、犬の散歩、デイキャンプ、水遊び、魚釣り など
利用者数	922人/日（平成26年7月27日（日）調査実績） 68人/日（平成26年7月28日（月）調査実績）
点検参加人数	35名



■平成26年現在の成績表

総合的な成績：☆☆☆☆（四つ星：相当良い）

No.	点検項目	現状の状況			整備必要%	重要度			
		良い	普通	悪い		非常に重要	重要	普通	不要
1	豊かな自然を感じますか	○			3%			○	
2	水はきれいですか	○			3%			○	
3	流れている水の量は十分ですか	○			3%			○	
4	ゴミがなくきれいですか	○			11%		○		
5	危険な場所がなくて安全ですか	○			3%			○	
6	景色はいいですか	○			0%			○	
7	歴史・文化を感じますか		○		3%			○	
8	堤防や河川敷には、近づきやすいですか	○			0%			○	
9	水辺へ入りやすいですか	○			3%			○	
10	広場は利用しやすいですか	○			0%			○	
11	休憩施設や木陰は十分ですか		○		69%		○		
12	散歩はしやすいですか	○			0%			○	
13	トイレは使いやすいですか			○	80%		○		
14	案内看板はわかりやすいですか	○			6%			○	
15	駐車場は使いやすいですか	○			9%		○		

良い点 悪い点

■特に良い点

- ・環境はすごくいい
- ・景色がよく、自然を感じることができる。公共の場としてはゴミが少ないと思う。
- ・広場が広くて、きれいに管理されているので利用しやすい。
- ・散歩、サイクリングには最適

■特に悪い点

- ・トイレが少ない。
- ・日陰が少なく夏場はつらい。
- ・休憩施設がもう少しあればいいと思う。

■総合コメント

- ・気軽にスポーツやキャンプ、釣りなどの様々なレクリエーションを楽しむことができます。
- ・トイレが少ない、夏の日陰が少ないなどの課題もありますが、広場はきれいに管理されています。
- ・今後は、川に親しむ空間として、施設の充実を図っていくことが望まれます。

7.7 まとめ

7.7.1 堰と周辺地域との関わりのおまとめ

鳴鹿大堰が位置する九頭竜川流域では、人口は平成12年をピークに、産業別就業人口は平成7年をピークにそれぞれ減少に転じている。一方、観光面では流域内の観光入込客数が福井県内の約7割を占め、歴史・文化や水と緑などの自然に恵まれた観光地が多く点在している。また、鳴鹿大堰が立地する坂井市と永平寺町においては、九頭竜川を地域の資源として有効に活かした交流軸の形成や観光の振興等を地域づくりの目標に掲げている。

鳴鹿大堰の周辺では、鳴鹿大堰建設事業の一環として「わくわく RiverCan（九頭竜川流域防災センター）」を整備して、九頭竜川に関する様々な資料を展示するとともに環境学習の場等として提供し、小学生以下の子供から大人まで幅広い年齢層に利用されている。「わくわく RiverCan」は、近年では年間およそ5,000人強の利用者があり、開館以来の総入場者数は約158,000人に達している。また、「自転車の駅」に認定され九頭竜川堤防のサイクリング利用の促進にも貢献している。

また、「わくわく RiverCan」以外にも、管理所1階の鳴鹿大堰を紹介する展示や魚道観察室、旧鳴鹿堰堤を活かした見学橋などを整備し、周辺地域に暮らす人々、訪れる人々に活用されている。

7.7.2 今後の方針

地域のイベントや環境学習などの場を引き続き提供していくとともに、快適な利用のための維持管理を行っていく。

教育委員会とも連携し、地域の学校の総合学習の場としていく。

自転車の駅としての「わくわく RiverCAN」の広報に努めていく。

定期報告書(案)

7. 堰と周辺との関わり

7.8 文献リスト

表 7.8-1 「7.堰と周辺地域との関わり」に使用した文献・資料リスト

NO.	文献・資料名	発行者・出典	発行年月	引用ページ・箇所
7-1	九頭竜川水系河川整備計画	国土交通省 近畿地方整備局	平成19年2月	7.1.1 堰周辺地域の概要
7-2	国勢調査結果(市町村の人口) 福井県ホームページ 福井県統計年鑑	福井県	(昭和30年～平成28年のデータ)	7.1.1 堰周辺地域の概要 7.2 堰事業と地域社会情勢の変遷
7-3	岐阜県ホームページ 岐阜県統計書	岐阜県	(昭和30年～平成28年のデータ)	7.1.1 堰周辺地域の概要
7-4	国勢調査結果 (世帯数・産業別就業者数)	総務省統計局	(昭和30年～平成27年のデータ)	7.1.1 堰周辺地域の概要
7-5	近畿地方整備局管内道路網図	国土交通省 近畿地方整備局	—	7.1.2 堰の立地特性
7-6	九頭竜川流域誌	近畿地方整備局 福井河川国道事務所	平成14年3月	7.1.2 堰の立地特性
7-7	九頭竜川鳴鹿大堰工事誌	近畿地方整備局 福井河川国道事務所	平成18年3月	7.2 堰事業と地域社会情勢の変遷
7-8	坂井市総合計画	坂井市	平成25年3月	7.3.1 地域における堰の位置づけに関する整理
7-9	永平寺町総合振興計画	永平寺町	平成20年3月	7.3.1 地域における堰の位置づけに関する整理
7-10	新聞記事スクラップ	福井河川国道事務所	—	7.3.2 地域と堰管理者の関わり 7.4.2 堰周辺の施設の利用状況
7-11	九頭竜川鳴鹿大堰フォローアップ 年次報告書	近畿地方整備局 福井河川国道事務所	平成25年～平成29年	7.4.2 堰周辺の施設の利用状況
7-12	鳴鹿大堰管理所提供データ (種別別見学団体数・人数)	福井河川国道事務所 鳴鹿大堰管理所	(平成14年～平成29年のデータ)	7.4.2 堰周辺の施設の利用状況
7-13	鳴鹿大堰管理所提供データ (ダムカード配布数)	福井河川国道事務所 鳴鹿大堰管理所	(平成25年～平成29年のデータ)	7.4.2 堰周辺の施設の利用状況
7-14	平成26年度 九頭竜川河川水辺現地 調査(植物)他業務報告書	近畿地方整備局 福井河川国道事務所	平成27年3月	7.5 河川水辺の国勢調査(河川空間利用実態調査)結果